

うな環境の一層の充実のもとで、我が国のこれからの社会において活躍し、国際的に通用する若手人材の育成にも注力したい。

## 6 国際活動

### 6. 1 留学生の受け入れの現状

受け入れた留学生数は平成18年度からの4年間で56名に及び、国籍も多岐にわたる。彼らは総じて優秀で研究意欲にあふれている。受入制度として、平成5年から始まった国際大学院コースは、講義内容も次第に充実してきているが、英語での講義のバリエーションの面では一層の努力が求められる。資源化学研究所は早くからこれらのプログラムに積極的に参加し、留学生を受け入れてきたが、その増加に伴い、留学生の宿舎等の問題が顕在化していた。しかし、Tokyo Tech Nagatsuta Houseが平成19年秋に竣工し入居が始まって以後、留学生の入学の重なる時期を除けばいつでも空室があり、状況はかなり改善されている。海外の大学との交流協定は大学間で締結されるケースが多いが、資源化学研究所が独自に世界の大学・研究機関と研究交流協定を結ぶ例もある。最近では平成21年に中国の東南大学（南京）や北京化工大学と協定を結んだ。

### 6. 2 国際会議開催の現状

世界のトップ研究者が集まり最新の研究成果を発表・討論する場である国際会議・国際シンポジウムは、情報交換の場として極めて重要である。資源化学研究所には、既に述べたように関連する分野の研究で世界のトップランナーの評価を受けている教員が多数在籍しているので、過去5年間で資源化学研究所教員がオーガナイザーとして開催された国際会議は多数ある。

ここでは、資源化学研究所教員がチェアパーソンとして国内外で開催した主要な国際会議は、国際的に権威ある定期的な国際会議の開催としてTOCAT5（平成18年2月、東京）など5件、新分野開拓をめざした国際会議の開催として、International Symposium on Photomobile Materials 2009（平成21年11月、横浜）など7件がある。

### 6. 3 国際的活動に関する将来目標・計画

資源化学研究所は幅広い分野で世界的な研究者集団として、今後も引き続き権威と伝統を誇る定期的な国際会議や新分野を開拓する国際シンポジウム、さらには特定テーマに集う若手研究者の国際交流と奨励を目的とした国際会議の開催に積極的に参画していく。また、若手教員に対しては、国際会議参加・発表のための海外渡航だけでなく、国際交流を含めた自主的な国際研究集会の開催を奨励し、資源化学研究所として積極的に支援していく。留学生のポテンシャルを十分に生かし、国際的な研究を継続して行う。